

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、東京大会)の開催にあたり、市はドイツ連邦共和国、英国、カナダおよびイタリア共和国の「ホストタウン」に、英国およびカナダの「共生社会ホストタウン」に登録されています(令和3年3月時点)。

「ホストタウン」とは？

東京大会の開催に向けて、大会参加国と地域との人的・経済的・文化的な交流を図り、地域の活性化や観光振興などに取り組む地方公共団体で、内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局が登録を行います。



ホストタウン登録証

「共生社会ホストタウン」とは？

パラリンピアンを受け入れを契機に、共生社会の実現に向けた、ユニバーサルデザインの街づくりや心のバリアフリーに向けた取り組みを実施し、大会後のレガシーを見据える地方公共団体で、内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局が登録を行います。



共生社会ホストタウン登録証

市とつながる4つの国

①ドイツ連邦共和国
 面積: 35.7万km² 人口: 約8,315万人
 首都: ベルリン 言語: ドイツ語
ドイツ語であいさつ
 こんにちは: Hallo 頑張って: Viel Glück
事前合宿の予定
 陸上(五輪・パラチーム)

②英国
 面積: 24.3万km² 人口: 6,680万人
 首都: ロンドン
 言語: 英語(ウェールズ語等使用地域あり)
英語であいさつ
 こんにちは: Hello 頑張って: Good luck
事前合宿の予定
 トライアスロン(五輪・パラチーム)

④イタリア共和国
 面積: 30.1万km² 人口: 約6,046万人
 首都: ローマ
 言語: イタリア語(地域によりドイツ語、フランス語等の少数言語あり)
イタリア語であいさつ
 こんにちは: Ciao 頑張って: In bocca al lupo
事前合宿の予定
 未定

③カナダ
 面積: 998.5万km² 人口: 約3,789万人
 首都: オタワ 言語: 英語、フランス語
英語であいさつ
 こんにちは: Hello 頑張って: Good luck
事前合宿の予定
 トライアスロン(五輪・パラチーム)

全国各地に広がるホストタウンの取り組み

東京大会の開催に向けて、全国の自治体が「ホストタウン」として様々な取り組みを実施しています。東京大会が開催された際には、新型コロナウイルス感染症対策を十分にとった上で、大会を超えたつながりを国中、世界中に広げましょう。

関連サイトはこちら

世界はもっとひとつになれる…<https://host-town.jp>
 ドイツホストタウンマップ
 …<https://www.tokusupo.net/hosttown-germany/>

市は同じ相手国のホストタウンとして登録を受けた他の自治体とも連携をしながら、東京大会の開催に向けた機運の醸成に取り組んでいます。今回、本市と同様に、ドイツ連邦共和国のホストタウンとして登録を受けた24自治体で共通マーク「ドイツホストタウンマーク」を制作し、各自治体の取り組みを紹介したウェブサイトを「ドイツホストタウンマップ」を公開しました。

HOST TOWN
FÜR ドイツ ホストタウン
DEUTSCHLAND



▲情報はこちら

キラリ!

輝く次世代の宮崎人を応援

宮崎女子ソフトボール界に
 新たな風を吹き込むリーダー



この春、県内で36年ぶりとなる女子硬式ソフトボールの実業団チーム「フーデイズ」が誕生しました。社員の8割を女性が占める野崎漬物(株)が、選手を社員として採用する形で女子クラブチームを設立。その初代監督に就任したのが、実業団で活躍した経歴を持つ堀内祐規子さんです。「15年前の国体で宮崎県ソフトボールチームのキャプテンとして出場した時のつながりやご縁で、今回の監督の話をいただきました」と堀内さん。長い間県内に実業団チームがなかったため、有力選手は県外に流出。そのため国体には即席のチームで出場してきたのだそう。しかし、受け皿ができたことで、地元で好きなスポーツをしながら働く選択肢ができ、実業団チームが国体を狙えるチャンスも見えてきました。現在チーム

練習試合で選手としてソフトボールを楽しむ堀内さん。「メンバーと楽しみながらやっていきたい」と語る。

この春、県内で36年ぶりとなる女子硬式ソフトボールの実業団チーム「フーデイズ」が誕生しました。社員の8割を女性が占める野崎漬物(株)が、選手を社員として採用する形で女子クラブチームを設立。その初代監督に就任したのが、実業団で活躍した経歴を持つ堀内祐規子さんです。「15年前の国体で宮崎県ソフトボールチームのキャプテンとして出場した時のつながりやご縁で、今回の監督の話をいただきました」と堀内さん。長い間県内に実業団チームがなかったため、有力選手は県外に流出。そのため国体には即席のチームで出場してきたのだそう。しかし、受け皿ができたことで、地元で好きなスポーツをしながら働く選択肢ができ、実業団チームが国体を狙えるチャンスも見えてきました。現在チーム



メンバーと一緒に。「ソフトボールが仕事への活力になるといいです」と堀内さん。